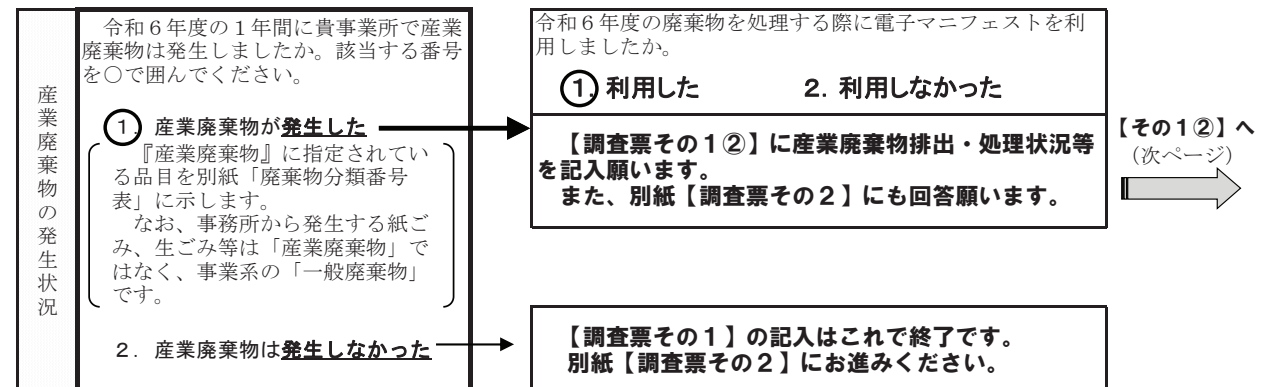


1. 調査の目的	令和6年度における岡山県内の産業廃棄物の発生、処理状況等の実態を調査し、併せて将来の予測を行うことにより、令和8年度に予定している「岡山県廃棄物処理計画」改定のための基礎資料を得ることを目的としています。
2. 調査の方法	本調査は、県内の産業廃棄物の発生、処理状況等を業種別、種類別、地域別等に詳細に解析し産業廃棄物の現状を把握するため、郵送によるアンケート調査等により実施します。
3. 調査対象期間	<u>本調査の対象となる期間は、令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間）</u> です。この期間中に発生した廃棄物の状況について記入してください。
4. 調査対象事業所	本調査は医療施設単位で行いますので、調査票が送付された病院・診療所等に関して、調査票に示した質問にお答えください。 調査票が送付された病院・診療所以外に支所、分所等が所在しても、それらについては調査の対象となりません。
5. 対象産業廃棄物	別添の「廃棄物分類番号表」に示す廃棄物を対象とします。ただし、本調査では通常の産業廃棄物の他に、自社内で再生利用したものや他者に売却した物も対象となりますので併せて記入してください。
6. 調査票の構成	本調査は以下の調査票および参考票から構成されています。



＜調査票その1②の記入要領・記入例＞

調査対象期間

- この調査の対象期間は、令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の1年間です。この期間中の廃棄物の発生と処理・処分の状況を質問①～⑪までの流れに従って記入して下さい。

調査対象とする事業所と廃棄物

- この調査では、調査票が送付された事業所内で発生した産業廃棄物（有償で引渡している副産物も含む）が記入の対象となります。
- 廃棄物がどのように分類されているかを示すために、別紙「廃棄物分類表」を掲げてありますので参考にしてください。

発生量について (③年間発生量)

- 自社で「焼却」・「脱水」等の処理を行っている場合は、その処理を行う前の「名称」と「数量」をお答え下さい。

○自社で焼却している場合の発生した廃棄物とは焼却前のものです。（記入例Bを参考にして下さい）

木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、燃やす前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。

○自社で脱水(乾燥)している場合の発生した廃棄物とは脱水(乾燥)前のものです。

汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式より計算して下さい。

＜式＞：（脱水＜乾燥＞前の汚泥発生量）＝（脱水＜乾燥＞後の汚泥量）×（１００％－脱水＜乾燥＞後の含水率％）÷（１００％－脱水＜乾燥＞前の含水率％）

- ただし、以下のものについては、中間処理後のものを発生量としてお答え下さい。

○廃酸、廃アルカリを公共水域（河川、公共下水道等）へ放流するために中和処理した場合。 → 中和処理後の「汚泥」を発生量とします。

○含油廃水を油水分離した場合。 → 油水分離後の「廃油」と「油でい」等を個別に（それぞれ1行ずつを）発生量とします。

- ## ●廃油について

○ドラム缶の本数で把握されている場合は、1本=180kg（200リットル）

○一斗缶の本数で把握されている場合は、1本＝16.2kg（18リットル）として換算してください。

記入について

- 同じ種類の廃棄物でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問①「廃棄物の名称」の欄から行を分けて記入してください。

- 処理業者へ処理・処分を委託している場合は、マニフェスト伝票を参考にして記入してください。
不明な点は、具体的な内容を処理業者に確認したうえで記入して下さい。

④自社中間処理方法コード表

A：焼却 W：油化
B：脱水 X：選別
C：天日乾燥 Y：固形燃料化
D：機械乾燥 Z：その他
E：油水分離
F：中和
G：破碎・粉砕
H：分級
I：圧縮
J：溶融
K：切断
L：焼成
M：堆肥化
N：銀回収
O：コークリート固型化
P：滅菌
Q：煮沸
R：オートクレープ
S：薬物消毒
V：濃縮

⑥処理・処分方法コード表

＜自己処理＞

W1：売却（利益があった）した。

V1：自社（または自社他工場）で再利用した。

Q1：自社（または自社他工場）の処分場で埋立処分した。

Z6：自社で保管している。

＜産業廃棄物処理業者等へ委託処理＞

S1：処理業者の処分場で直接埋立処理した。

T1：処理業者で直接海洋投入した。

U1：処理業者に中間処理（資源化・リサイクルを含む）を委託した。

X1：廃品回収（資源）業者、あるいは納入業者、関連企業等で再生処理をした。

＜市町村へ委託処理＞

R1：市町村が設置する一般廃棄物処分場で埋立した。

R5：市町村の清掃工場で処理（焼却、破碎、脱水等）した。
（ごみ収集を含む）

R6：市町村の清掃工場でリサイクルした。

＜その他＞

Z9：その他

⑨委託中間処理方法コード表

A: 焼却	T: 金属(鉄)回収
B: 脱水	U: 非鉄金属回収
C: 乾燥	V: 濃縮
D: 選別	W: 油化
E: 油水分離	X: 選別
F: 中和	Y: 固形燃料化
G: 破砕・粉砕	Z: その他
H: 分級	
I: 圧縮	
J: 溶融	
K: 切断	
L: 焼成・ばい焼 (セメント原料)	
M: 堆肥化(発酵)	
N: 銀回収	
O: コークスト固化	
P: 減菌	
Q: 煮沸	
R: オートクレーブ	
S: 薬物消毒	

⑪資源化用途コード表

- 10：鉄鋼原料
- 11：非鉄金属等原材料
- 20：燃料
- 21：木炭
- 30：飼料
- 31：肥料・堆肥
- 32：土壌改良材
- 40：土木・建設資材
- 41：セメント原材料
- 42：再生木板・合板
- 50：パルプ・紙原材料
- 60：ガラス原材料
- 70：プラスチック原材料
- 71：再生タイヤ
- 80：再生油・再生溶剤
- 81：中和剤
- 82：塩化鉄又は硫酸鉄原料
- 90：酸またはアルカリ
- 93：高炉還元
- 99：その他

記入例

[illegible]

記入例:A

感染性産業廃棄物などが発生し、
自社では中間処理を行わず、すべて電子マニフェストを利用して処理を委託した。

記入例：B

感染性産業廃棄物が年間1200リットル発生した。
 これらは、すべて備前市の〇〇産業に処理を委託した。
 〇〇産業では、焼却処分後、埋立処分された。

記入例：C

感染性産業廃棄物が年間3700kg発生し、自社の焼却炉で焼却を行い、焼却灰が250kg発生した。これらは、すべて倉敷市の△△産業(株)に処理を委託し、埋立処分された。

記入例：D

レントゲン定着廃液とレントゲン現像廃液がそれぞれ年間400kg発生した。
これらは、すべて兵庫県姫路市の(株)〇×に処理を委託した。
レントゲン定着廃液は、銀回収処理がなされ、再利用された。
レントゲン現像廃液は、中和処理後、発生した汚泥は埋立処分された。

記入例：E

プラスチックが年間500kg発生した。
これらは、すべて吉備中央町の㈱□□
に委託した。
㈱□□では、焼却処理後、埋立処分さ
れた。